資料５

一般財団法人　防府消化器病センター　防府胃腸病院

医療機関2025プラン

平成３０年　４月　策定
令和　４年１２月　策定

【基本情報】

医療機関名	一般財団法人　防府消化器病センター　防府胃腸病院
開設主体	一般財団法人　防府消化器病センター
所在地	山口県防府市駅南町１４番３３号
許可病床数 （病床の種別） （病床機能別）	１２０床 一般病床　１２０床 急性期　６０床　　回復期　６０床
稼働病床数 （病床の種別） （病床機能別）	１２０床 一般病床　１２０床 急性期　　６０床　　回復期　６０床
診療科目	消化器外科、消化器内科、内視鏡外科、内視鏡内科、疼痛緩和内科、胃腸外科、胃腸内科、食道内科、外科、内科、放射線科、リハビリテーション科、麻酔科
職員数 ・　医師 ・　看護職員 ・　専門職 ・　事務職員	195 名 8 名 109 名 48 名名 30 名

【１．現状と課題】

① 自施設の現状

届出入院基本料　一般病棟基本料　急性期一般入院料１　60床　地域包括ケア病棟入院料１　60床

平均在院日数10.4日　病床稼働率44.8%

② 自施設の課題

医師ならびに看護体制の確保

【２．今後の方針】　※　１．①～②を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

当院における手術実績は平成30年の年間321件から、令和3年度で488件と増加した。また、5日ごとの輪番にて2次救急の受入も継続して実施している。消化器内科と消化器外科の連携を推進し、消化器領域に特化したがん治療、内視鏡治療、腹腔鏡下含む外科手術、化学療法、多職種によるがんリハビリテーション、周術期に対応する呼吸器リハビリテーション、緩和ケアなどを含めた医療機能を提供している。がん検診含め、上部・下部消化管への内視鏡検査は年間7000件を超え実施している。これらの機能を生かし、今後も引き続き地域の2次救急医療機関として急性期医療を担って行きたいと考えている。

また、回復期の病床が不足するとのことで、平成30年12月に急性期60床を回復期に転換したが、現在のところ当該病棟は新型コロナウイルス感染症の受け入れに関する入院協力機関としても貢献しているものの、地域包括ケア病棟として、本来の稼働は低迷している。

そのため、限られた医師、看護師等の医療資源を集約して最大限効率的に活用しつつ、がん患者が化学療法、免疫療法等で安心して受療できる治療室や救急医療のための入院待機室のスペースを確保するため、回復期を12床削減する。

なお、当院は在宅療養支援病院でもあり、在宅医療についても引き続き貢献できる体制を整えたいと考えている。

② 今後持つべき病床機能

急性期および回復期として現状と変更はない。

③ その他見直すべき点

地域包括ケア病床の役割についてさらに検証をすすめる。

【３．具体的な計画】　※　２．①～③を踏まえた具体的な計画について記載

①　４機能ごとの病床のあり方について

＜今後の方針＞

	現在 （平成30年度病床機能報告）		将来 （2025年度）
高度急性期		→	
急性期	１２０		６０
回復期			~~６０~~　４８
慢性期			
休棟等			
（合計）	１２０		~~１２０~~　１０８
介護保険施設へ移行予定	－		
うち、介護医療院	－		

＜年次スケジュール＞　※今後のスケジュールがある場合に記入

年度	取組内容	到達目標
2023年度	回復期病床を12床削減し、がん等の患者に化学療法を提供する治療室を設置する。また救急医療のサポート体制として入院待機室として現病室を活用する。	院内にスペースを確保し、がん治療室の整備と入院待機室へ転用し、より安心安全な環境での受療を可能とすることにより地域医療に貢献する。

②　診療科の見直しについて　※検討の上、見直さない場合には、記載は不要

③　その他の数値目標について　※該当項目がある場合に記入

【４．その他】（自由記載）

平成30年の病床機能報告時には特に外科医を中心として医師不足が顕著であり入院患者の受け入れに十分対応できていなかったが、外科医確保については2021年に4月に一定数の充足をみた。今後は総合診療医の確保に努め地域包括ケア病床のより充実した活用へむけて進めたい。 外科医確保により急性期60床は維持し、今後は看護体制も整えて、回復期病床の充実を図り、さらに役割を果たして行きたい。